

いのちの言の葉2024

富山県教育委員会 令和6年度いのちの教育総合支援事業

「いのちの授業（元教員）」
氷見市立窪小学校（令和6年6月実施）

「いのちの授業」



【児童のメッセージより】

いのちの先生の話聞き、死ぬのはいやだけど、その前にできることがあれば、あきらめずにやりきりたいと思いました。世の中には支えてくれる人がたくさんいるから、それを思って生きていこうと思いました。いのちの大切さが、すごくわかりました。

【家族のメッセージより】

子供たちにいのちの大切さを教えていただく機会をくださりありがとうございます。子供たちはいのちの大切さや家族からどれだけ大切にされているかをなかなか実感してくれないように感じます。子供と向き合って、いのちの大切さを話し合うことがなかったのが、よいきっかけができたと思います。

「いのちの先生」の話

「夢や命について考えよう」

- ①病気との闘い
- ②「雨ニモマケズ」について
- ③将来の夢について

【家族のメッセージより】

生まれてきてくれてありがとう。大きな病気もせず、元気に育ってくれてありがとう。家族を助けたり、笑わせてくれたりして、幸せな気持ちにしてくれてありがとう。

今回、いのちの大切さを学んだと思います。自分や家族だけでなく、周りの大切な人のいのちも大切にしてください。

【児童のメッセージより】

ぼくを産んでくれてありがとう。ご飯を作ってくれたり、習い事のお迎えをしてくれたり、めいわくをかけているけれど、いつかこの育ててくれた恩は返すので、安心して育ててください。これからいのちを大切に生きていくので、お母さんもいのちを大切にしてください。

